

一月の俳句

(2 0 2 1 / 0 1)



目次

たべもの俳句	モノロク俳句	歳時記俳句
13	8	1
）	）	）

<睦月>

正月，初春，新春，孟春，芳春，厳冬，厳寒，酷寒，甚寒，極寒，降雪，寒風，寒冷，松の内，七草粥，小正月，寒の入り

(宇佐美保幸)メール・zeirisi777usami@aol.com

毎日の俳句は次のブログに
巣鴨とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

酒飲めてまずは新年おめでとう

特別な実感もなく今年かな
何変わる何も変わらず年新た
十円分信心したり淑気かな
予測不能時代を生きる初日の出
気持ちだけハワイで過ごす元日や

初夢のわれは狼群れのボス
初夢や鬼神の刃主人公
難しき初夢をみた年なれど
百円ショップ買ひし数種のかるたかな
初鏡変わらぬ顔がそこにあり

精神を飛ばし的まで弓始め
弓始めりりしき袴少女たち

サービスエリアトラック眠る去年今年



去年今年支持率下がる首相かな

お年始の話題プレバト楽しけれ
とりあえず今日で終わりの年始酒
初富士や噴火予測と噴火予知

だから何油断大敵松過ぎる
寒波来る昭和演歌で籠もる日々
寝て覚めてあんか蹴飛ばし寒九かな
いくつかの失敗楽し里神楽
成人の日自問自答の四捨五入

水仙花吹雪に耐えて能登に咲く
水仙の向こうに何が瀬戸の島
水仙が水仙らしく瀬戸の島
海へ向く水仙白き波を打ち

甘栗の匂い一月駅通路



生きるためゴミも散らすぞ寒鴉

ともかくも街散歩する寒日和

街散歩谷中寺町寒日和

寒晴や空は晴れても一老人

無能無才冬日に当たり爪を切る

なんとなく砂浜に立ち冬の陽よ

女正月岡山地酒こそありき

なんとなく夜を差配し寒椿

尼寺に男が訪ね寒椿

地味なれどひとつひとつの寒梅や
世の中の流れに背きアロエ咲く

歳とれどアラビアンナイト冬銀河

今もなお進化している冬銀河

鉄橋の三角四角冬銀河

好きですかそれとも嫌い銀河系



冬銀河メールいくつも削除する
どこで死ぬ畳の上で冬銀河

なぐさめかゲリラごときに寒波来る
何度目か寒波なるもの繰り返し
しんしんと寒さもうれし生きている
歳重ね堪えきれずに大寒に
寒の雨口中荒れて飴しゃぶる
庭木達うれしがるのか寒の雨

高層マンションそれぞれはがし冬満月
月冴ゆる瀬戸の島々瀬戸の橋
寂しさを手紙に詰める冬斗星

パスワード使い回しの冬堇
日だまりでまどろうごとく冬堇
冬堇子供虐待親子とは



豪華なり一輪だけの冬薔薇
冬薔薇罪を購い花咲かす

白鳥はなぜ争うか水の花
白鳥は白を競いて争へる

モーロクし何ほどもない冬景色
黒マスクやはり異様な冬の闇
スマートフォン冬は静かに怒っている

虎落笛大三元を聴牌し
予備校生テストテストの虎落笛

山なりに本なりに雪積もりけり
山鳩よ山々すべて雪がふる
寝酒して時間は東や夜の雪
吹雪く雪かすむ照明滑走路
じよんがらもかすかに遠く吹雪かな

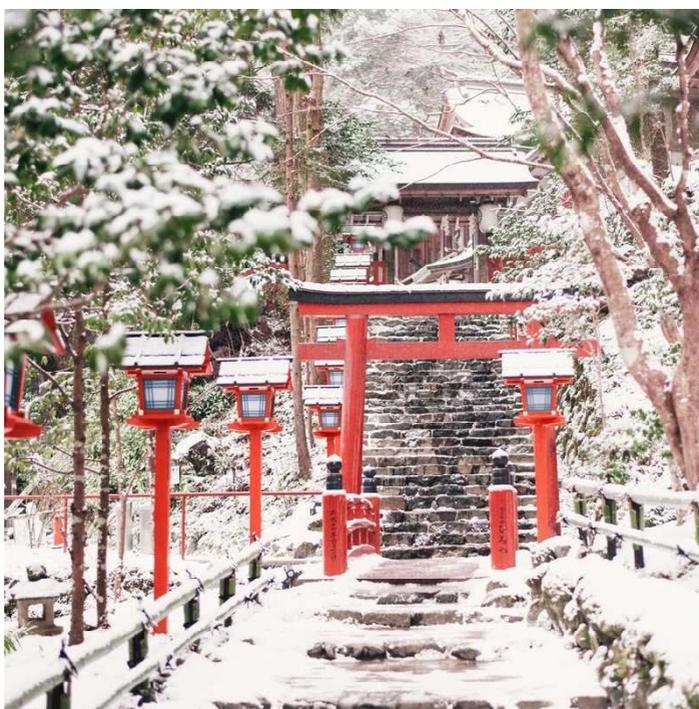


暁に起きて日毎パソコン春を待つ
春を待つ凍土に埋もれしマンモスや
しまなみの島々多く春隣

早々と晦日正月今年また

家族皆別々の風邪引きにけり
間違いない有象無象の風邪の神
格差かな出世をしたし風邪の神
しばれると言う言葉さえしばれけり





モ一ロク俳句

モ一ロクしめでためでたや初日の出
モ一ロクしモ一ロクすれど初詣

モ一ロクしふくふくとあれ雑煮食べ
モ一ロクし独り居よけれ餅焼いて
モ一ロクし危険となりし雑煮かな

初夢がくるくる回るモ一ロクし
初写真モ一ロクすれば窓開き
初御空モ一ロクすれば何祈る
モ一ロクし少し無理して初笑

モ一ロクし齡重ね来て去年今年
寒晴れやすべてうやむやモ一ロクし
寒晴れやモ一ロクしても耳ざとく



草の名を問われモーロク七日かな
モーロクし死んでたまるか七日くる
モーロクし髭剃り忘れ寒椿
歩かぬとモーロク進む落椿

モーロクし何もできない冬の梅
モーロクし冬の金魚を友として
みな燃えてどんどを恐れモーロクし
モーロクし糟汁食べて酔う始末

モーロクし植物となる冬の水
薄墨の寂しモーロク冬の水

着ぶくれてモーロク重さ背負ひけり
着ぶくれて転ぶモーロク骨折し
モーロクし笑う自由や着ぶくれて
モーロクしたれも来ぬ日の小正月



モーロクし沈黙守り雪武甲
モーロクしまぶたの落ちる雪景色
雪だるまモーロクすれば溶けゆくか
ちぐはぐに人はモーロク雪の朝

モーロクし奇蹟を祈る冬銀河
モーロクしふがいなきこと冬銀河
冬銀河モーロクすれば骨が散る
煌めくは無限無限の冬銀河

モーロクし骨抜き of 鯖冬北斗
寒星の真ん真ん中でモーロクす

モーロクしあれは本音だおでん酒
冬の蚊のさびしさそしてモーロクす

モーロクと最中は嫌い日向ぼこ



モーロクし死ぬるに似たり日向ぼこ
モーロクし生死の外や日向ぼこ
日向ぼこ忘れ上手にモーロクす

モーロクしコツリコツリと冬ごもり
モーロクしポツンポツンと冬ごもり

モーロクし融通利かぬ日脚伸ぶ
枯野にてモーロクすれば漫然と
脳みそが枯野となつてモーロクす

モーロクし薬あれこれ冬深し
モーロクす分別ありて冬過ごす

冬空の青さにモーロク立ちすくむ
冬の雷モーロクすれば時に泣く

モーロクしありのままなり冬の虹



モーロクしされど前向き冬の月

モーロクしすることなくて冬の波
モーロクしつまづきながら冬日和
モーロクし船出の気分冬木の芽

モーロクし炎の時代枯木かな
モーロクしししぶと枯れ風に枯れ
モーロクし三寒四温リスクあり

モーロクし過去にこだわり春を待つ
モーロクし転げ転げて春を待つ



たべもの俳句

ロースハム厚切りにしておせちなり
宅配でおせち取り寄せ和の文化
柚刻み紅白なます彩りを
小殿原大小ありて酒を酌む
田作りを入れ歯で噛んで年老いて

いただきます声を合わせて雑煮かな
モーロクし昔を偲ぶ切山椒
三が日が過ぎて納豆朝ご飯
三が日過ぎてさっそく鯖味噌を

ぷくぷくと膨らむ餅が冬山に
もやもやと餅がふくらみその先は
正直に生きて今年も餅を焼く
トースター丸餅二つふくくれる



市場にはずらり尾鰭のなき鮪
尾鰭なき鮪あわれに競り売られ
気負わずにも七草ならぬ梅がゆで

寒卵割つて納豆黄身白身
寒卵昔女に尾びれあり

駅そばで朝食すます着ぶくれて
足踏みし立ち食い蕎麦や雪の朝
外は雪冷凍饅頭が湯にほどけ

湯豆腐は何度のお湯が好みかな
湯豆腐や沈黙続く二人かな
湯豆腐や夫婦別々鍋にして
湯豆腐も時に変化のポトフ風

湯気のぼる釜揚げうどんちくわ天



哲学者おでんと酒でご機嫌に
金目鯛煮ても焼いてもぎよる目かな

小豆粥無病息災小正月

小松菜は東京野菜江戸野菜

小松菜とお揚げ浸し胃に優し

あんパンも少し温め風花かな

つるつるりなめこと豆腐お味噌汁

不満など言ってはならずなめこ汁

大根おろしおいしさ変わるおろし器で

二十日正月麦飯炊いてとろろかな

冬青空フランスパンを買い求め

冬の夜にブラック珈琲愛読書

大根と豚バラ煮物冬の月



炭跳ねる音も美味なり牡蛎小屋や
牡蠣小屋のみるみるあまた牡蠣の殻
簡単に牡蛎を包んでホイール焼き
芽キャベツがごろんと入るお味噌汁

楽しくてそして悲しき冬苺
豚肉とキムチのスープ冬の夜

人参をシンプルに煮てグラッセを
初不動浅蜷佃煮買い求め

三寒四温ホットケーキに蜂蜜を
三寒四温焼き餅にゴマきなこ

冬ぬくし何故か京都でパン食べて
白菜をたっぷり使い冬カレー

朝ご飯食べるラー油や外は雪
靴下をはいてそのまま寝酒かな



寒き夜あんかけ炒め并に
冬深し焙煎豆が焦げてゆく



